

2020年度しあわせ研究

仕掛学を用いた環境配慮行動促進

研究員 高橋和枝
磯部孝行
松浦廣樹



地球温暖化や希少資源の枯渇等、様々な環境問題を解決するためには、地球規模で考え、日々の生活の中で環境に配慮して行動することが重要である。しかし環境に配慮した行動が、必ずしも個人の利害と一致しない場合も多く、個人の努力のみに頼ることなく、人々の行動を変えることが、環境問題を解決する鍵であると考えている。

本研究では、人々が環境配慮行動を起こすために「仕掛学」の応用を検討した。仕掛学とは、松村⁽¹⁾が提唱する無意識のうちに人々の行動や意識の変化を起こさせる仕

組みを体系的に解明するものである。

環境行動に関するアンケートの結果、ゴミの分別は面倒でできないという意見が多かった。そこで、ペットボトルを対象として、仕掛学を応用したシステムを構築した。具体的には、図1に示したような回収システムを設計し、さらに再生材を用いて試作品を作製した。ボトル回収箱は、ラベルを剥離することにより、背景の絵が見えるようになり、また、キャップ回収箱は、様々な色・模様についているキャップを一方向に集めることでアート作品となる。今後はこのシステムを学内で使用していただき、さらに改良を加えていく予定である。

【参考文献】

- (1) 松村、第25回人工知能学会 全国大会、3A1-OS11a-1、(2011)



図1 ペットボトル回収システム